

第2回研究会（公開）

「近代仏教と 宗教教育」

—近角常観の家族観の影響—

講師：岩田文昭

（大阪教育大学教授）

2022年10月29日（土）14:00~17:30

開催方式：対面／オンライン併用

場所：**対面** 大谷大学 響流館3階メディア演習室（科研メンバーのみ対面参加とさせていただきます）
オンライン Zoom 同時配信（末尾の連絡先に事前の申し込みをお願いします）

講演要旨

「教育思想の形成に近代仏教が与えた影響について注目をされることは少なかった。しかし、当時の日本の宗教状況を考慮すれば、間接的にはあれ、近代仏教が一定の役割をになったことは間違いない。明治末期から昭和初期に活躍した、真宗大谷派の僧、近角常観は、知識人青年にもっとも影響を与えた人物である。三木清、谷川徹三、福島政雄、白井成允、宮澤賢治一族、古澤平作など数多くの青年が近角の説教を聞いた。講演では、第一に、近角の布教活動の概略を「伝統の再編成」という観点から示す。ついで、雑誌『政教時報』時代にみられる近角の宗教教育観を説明する。第三に近角の提示した家族観を阿闍世説話や聖徳太子理解から説明し、それが福島政雄らの心に響いたさまを示す。最後にこの家庭観が日本精神分析学会初代会長・古澤平作を介して、小此木啓吾「阿闍世コンプレックス論」や土居健郎「甘え」論にまで変容されつつ継承されたことを示す。そして、この継承の過程において、再編成された仏教・浄土教の伝統的要素が看過されたことを示したい。」

* オンライン参加を希望される方は、慶應義塾大学 眞壁宏幹（hmakabe@keio.jp）までご連絡ください。Zoom 情報（URL 等）をお送りいたします。